

＜令和４年度 研修事業 受講者数 受講者の声＞

令和４年度、当教育センターでは、初任段階教員研修を始めとする基本研修、専門研修、担当者研修・協議会等を開催しました。

【受講者数】※延べ人数として集計

研究種別	受講者数
基本研修（初任段階教員研修、中堅教諭等資質向上研修）	120 名
専門研修（管理職研修、教科等研修、課題別研修）	354 名
担当者研修（教育課程研究協議会・教務担当者研究協議会等）	285 名

【受講者の声（一部抜粋）と研修の内容等】

① 基本研修（初任段階教員研修、中堅教諭等資質向上研修）

- 学習評価について、どのような観点から検討し評価することが求められているかを知ることができた。（１年次）
- 授業の導入の場面の大切さや、どのように充実させるかの具体を知ることができた。（２年次）
- 民間企業と大野農業高校とのワイン造りの実践を知り、自校の地域連携やキャリア教育の在り方のヒントを得ることができた。（３年次）
- 特別支援学級における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元づくりの重要性を学んだ。（４年次）
- 不登校等の生徒指導対応について、組織的な対応、体制整備や情報共有が大切であると再認識した。（５年次）
- ミドルリーダーとしての自覚、メンター研修等の積極的な実施に向けた意欲が喚起された。（中堅教諭等）

② 専門研修（管理職研修、教科等研修、課題別研修）

- ジャムボードとドライブを連携させた本実践は、他の教科にも活用できる方法であることが理解できた。（ＩＣＴ教育）
- 道徳教育の充実や道徳性の涵養に向けた視点、ねらいを踏まえた授業づくりの具体が理解できた。（道徳科教育）
- 算数・数学科の見方・考え方を働かせる効果的なＩＣＴ活用の在り方が理解できた。（算数・数学科科教育）
- 児童と教師がルーブリックを共有し、本時のねらいに迫る取組が参考になった。（外国語教育）
- 国語の資質・能力を伸ばすために、実態把握とねらいに迫る手立ての構築が大切であると理解できた。（国語科教育）
- パネルディスカッションで学校と違う立場の視点から生徒指導の在り方を捉え直すことができた。（生徒指導）
- いじめの定義の理解やSNSによるいじめへの対応に向け、学校全体で共有・実践していきたい。（生徒指導）
- 支援員として、チーム学校に基づく個に応じた支援を実施する大切さが理解できた。（特別支援教育）
- 学校におけるジェンダーの課題は人権教育の課題として今後取り組んでいきたい。（特別支援教育）
- アセスメントに基づき子どもの得意な部分に着目し、それらを活用する特別支援教育を実践したい。（特別支援教育）
- 子どもたちや地域の未来を考えた教育課程の編成・実施および改善を推進していきたい。（管理職研修Ⅰ）
- 学校教育目標や目指す子ども像に迫る日常的な授業改善を推進していきたい。（管理職研修Ⅱ）

③ 担当者研修（教育課程研究協議会・教務担当者研究協議会等）

- 学校教育目標と総合的な学習の時間のつながりを改めて意識して教育課程の編成に生かしていきたい。（教育課程研）
- 子どもの資質・能力の育成に向けたＩＣＴ活用および教育課程への位置付けを推進したい。（教務担当研）
- 函館市の現状や地域性を踏まえた食育指導の展開について考えることができた。（栄養教諭研）

④ 「訪問研修」の主な内容と授業改善アクションプロジェクトについて

- プログラミング教育の実践、学習用端末を活用した授業づくりと学習指導の具体的な方法について
- 特別支援教育における教育課程の編成および自立活動や生活単元学習の効果的な取組について
- 不登校児童および保護者へのアプローチと関係機関との連携について
- 各教科等における授業改善について（「授業改善アクションプロジェクト」１３名実施）